

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200630		
法人名	社会福祉法人 福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム 安養 （西棟、東棟）		
所在地	福岡県福岡市西区生の松原3丁目13番15号		
自己評価作成日	平成28年2月25日	評価結果確定日	平成28年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&lgvssyoCd=4071200630-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成28年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立つ南欧風の建物、落ち着いた室内の雰囲気と日中は開閉式の屋根があるテラスに日が降り注ぎ日光浴が楽しめます。施設には大型のプラズマクラスターや居室・リビングには加湿器を設置しており空気清浄や臭いの無い、入居者様が心地良い時間を過ごすことが出来る様環境整備に努めています。また、年間の行事には夏祭り・紅葉狩りなど季節を感じられるものを積極的に取り入れており、行事以外にも利用者様個々の状態に応じた外出支援にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主任の現場に対する「より良い施設にしていこう!」というひたむきな気持ちが各職員にも伝わり、同じ目標に向かって、前向きで楽しく利用者とともに過ごしている様子がうかがえる事業所である。運営推進会議には、孫世代の参加者もいて家族の出席が多く、この事業所が足を運びやすい施設になっている。家族の意向を丁寧にヒヤリングして、昨年は定例の敬老会を、事業所で行い家族交流ができ満足されている。住環境においては、ケアハウスと併設されていて、各ユニットの共用部分はワンフロアでスタッフルームを中心に東西に配置され見通しの良いレイアウトになって、職員の見守りがしやすい。各居室は採光の良い掃き出し窓になっており景色もよくみえ、私物や衣類を収めるクローゼットスペースも広く、ユニットごとに、廊下壁面に大型のプラズマクラスターを設置していて、消臭効果、感染症まん延防止効果があり、環境整備がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも確認できるように掲示をしており、理念に沿ったサービスの提供を心掛けている。また、法人内部研修でも勤続職員への理念の確認及び新人職員への周知に努めている。	法人理念は目につきやすい玄関の壁に掲示され、職員は常に確認できており、よりよく理解している。また、各職員は日々のケアの中で“幸福の実現”や“安らぎと安全・満足”等理念一つひとつを具体的に実践するための意識付けが強くできている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、地域の方々の会合等に施設の一部の貸出を行っている。	校区の夏祭りには、入居者とともに参加し地域の要請により“模擬店”を出店するなどで交流を強めている。 今後は、地域の会合等にもできるだけ参加していくことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者状況の報告を聴いて頂いている。また、地域の方々からの入居の問い合わせ時など、不定期ではあるが認知症の人の理解や支援の方法について話をする機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や行事報告及び課題について話し合いの場を設けている。	ご家族や地域の方に事業所の行事のあり方についての意見を聞いたり、事故報告や服薬チェック体制などを会議の場で報告する等、『開かれた、信頼おける事業所づくり』を実践中である。	職員皆で運営している気持ちを強めるために、責任者のみが出席している運営推進会議へ毎回職員が数人参加し、議事録等の報告書も全職員が供覧する体制ができるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて関連部署へ連絡を取り協力をしているが、日頃からではなく密には至っていない。	事業所の状況を一番わかってもらえる場である運営推進会議へは家族の出席は多い状況が続いているも、ファックスなどで参加をアプローチしているが公的機関の出席がほとんど実現できていない。	運営推進会議への公的機関(区役所、社会福祉協議会、校区自治会、消防署、警察ほか)や同業他事業所など幅広いメンバーへ、アプローチして事業所への協力体制を作り、地域での連携を深めて、協力者を増やすことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動や法人内部研修等の勉強会を通じて取り組んでいる。また、部署の月例ミーティングでも必要に応じて提供するケアが身体拘束に該当しないかを検討する機会がある。玄関については現在施錠をしている。	玄関は入居者の安全を考慮して施錠している現状である。月例ミーティング事例として、入居者への車椅子対応が身体拘束に該当していないかなど細部にわたり検討がなされていることが内部研修記録で確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修等の勉強会を通じて、何が虐待に当たるか等職員へ確認、指導にて虐待の無い施設作りに努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部研修にて学ぶ機会を設け、必要に応じて管理者を通し支援できるようにしている。	日常生活支援事業及び成年後見人の事例はないが、権利擁護等への理解は内部研修を通して周知されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書にて説明を行い、改訂の際は文書や運営推進会議・来苑された時などに説明を行い理解を頂くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日頃来苑された際の近況報告等を通じて意見を頂いている。	敬老会は遠出して行っていたが、家族にヒヤリングし、意見をまとめ、昨年は事業所内で家族会として交流を深めるために行い、好評だった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常からヒアリング及び月例等のミーティングで職員の意見を聴く場を設けている。	月例のミーティングでは、利用者担当の各職員から個別の状況報告として提出され、それぞれのケースごとに改善点等の話し合いがなされている。また、昨年からデジ目を職員に渡し無記名にすることで意見がでやすくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書へ記入し面談を行い、本人の希望や意見を聴くようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	経験や年齢などに関係なく選考を行っている。また、入職後も職員の能力が発揮できるように相談・援助を行っている。	27歳から57歳と幅広い年代の職員が働いていて、「説得力のある会話を身につけたい」や「リーダー希望」や資格取得など職員個々の目標に沿い、それらを達成、発揮するための働きやすい職場環境づくりを実施している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法人内部研修等の勉強会を行い、人に対する尊厳や人権尊重について取り組んでいる。	当法人の理念である『人間としての尊厳を尊重しながら』や『強い倫理観をもって』を職員は毎日の業務の中で実践している。さらに内部研修等においても担当委員のリードで定期的開催していることで全職員に意識付けがなされている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内部研修や部署内ミーティングでの勉強会などで職員の資質向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や交流会へ参加する機会を設け、ネットワーク作りが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談を行い、不安なことや要望等の確認・情報収集に努め、サービスの提供を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なこと、要望等の確認・情報収集を行い、入居後も近況報告や意見を聴く機会を設け関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	健康状態や精神面を把握し、他のサービス利用も視野に入れた相談援助を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意見を尊重し、日々の生活の中で助け合う関係構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事等の中で本人様と共に過ごす時間作りを行い、状態を知って頂きながら共に支えていく関係を心掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様や、そのご家族に馴染みのある方が気兼ねなく来苑出来る様心掛けている。	来設者に対しては「時間を気にせずいつでもおいでください」と、受け入れ対応できるよう職員に周知している。このような運営が、家族や知人などの気軽な来設を促している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮しながら、共に活動したり交流を通じて良好な関係が構築出来る様援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスや相談援助等積極的に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様やご家族へのヒアリングを行いながら要望の把握に努めている。また、要望を尊重しながら日常生活の中で本人様に合った暮らしの提案を行っている。	職員は、言葉では伝えきれない入居者や家族の意向に丁寧に寄り添う姿勢で対応している。入居者本位に考えたリビングの配席や、行動に配慮した事業所対応がなされている。ユニットのリビングでは、入居者が落ち着いた様子で過ごしているのが見られた。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活履歴や本人様・ご家族よりヒアリングにて情報収集に努めている。また、入居前に他のサービス利用があった際には、そのサービス事業所へ利用の経過等の情報収集・連携にも努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化を見逃さないようバイタルチェックや観察記録の共有を行い現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族、職員と情報交換を行い介護計画に反映させている。また、入退院や状況の変化の中から新たな課題が出てきた際には、その都度見直しを行い反映をさせている。	入居者の以前の仕事や生活の様子など詳しく情報を集めアセスメントをして、入居後も生活の場であるグループホームで本人がやれることをやって貰い、生活の質を上げるような計画を作成することを心がけている。3ヶ月ごとにモニタリングをして記録し、本人本位の計画を作成して実践している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の経過記録や伝達ノートで職員間の情報共有をしながら実践し計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状況把握に努めながら、場面に応じた対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や、園児交流会など地域との関わりを定期的に行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人様・ご家族の意向を尊重しながら決定をしている。協力病院があり24時間相談も出来るよう取り決めている。また、医療機関とは定期的にミーティングの場を設けている。	受診時は普段の様子がわかるものを準備して行き、受診記録も残している。訪問診療、往診、定期受診などを利用して、医療面の充実に図り安心した生活が出来る支援をしている。4ヶ月に1回、協力病院の看護師とミーティングを行い、入居者の症状などを話してアドバイスを受けている。	今後さらに訪問歯科を増やす予定なので、この機会に誤嚥予防のために、口腔ケア、口腔体操などの指導を受け、入居者がいつまでもきちんと口から食べることが出来る支援をする事を期待したい。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時及び必要に応じて随時、利用者の状態を伝え対応や受診など指示を貰い適切な対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け医師や看護師との情報交換や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けたケアの指針を文書にて説明し、ご家族の方針等ヒアリングを行っている。また各方面と連携しながら、本人様やご家族へ援助や相談を退去後も行うようにしている。	最近、終末期を迎えた入居者と家族に寄り添い、意向に沿って医療機関と連携し丁寧に支援した経験がある。家族の希望で他の施設に移る時には、必要な福祉用具のことなど詳しい情報を伝達している。また、転居した方への面会も定期的に行い相談を受けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや研修にて必要なスキルを身に付けるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルや避難訓練に参加し対応出来るようにしている。	同じ敷地内のケアハウスと合同避難訓練を年2回実施し、入居者も参加をしている。消火器の扱い方は全職員が把握している。	風水害避難訓練に近隣の方たちへ参加を促し、入居者の避難見守り対応をしていただける協力者を作り、ケアハウスと協力をして、高齢者向けの食料品などを含めた災害時の備蓄品を備え保管することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや振る舞いに注意し、職員間でも確認を行いながら対応を行っている。	入居者にトイレ誘導の声かけを上手にしており、周りの人に気づかれること無く、本人が素直に応じてトイレに行く様子を訪問調査当日見ることができた。職員は羞恥心に配慮した声かけをしている。入居者に対して自分の親ならばとの思いで仕事に従事している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の支援の中で利用者の希望を優先し、また自己決定出来るような言葉かけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや意思を尊重しながら支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れや乱れがないように注意を払い、外出や行事・普段着など場面に応じたおしゃれが出来るよう援助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房にて対応している。アレルギーや好み、状態に合わせた食事形態で提供し食事が楽しみなものになるよう支援を行っている。会話も楽しめる雰囲気作りに努め、下膳等片付けは共に行うようにしている。	厨房から届いた食事を職員と共に盛り付け、配膳している。ご飯を炊く匂いを感じてもらうために事業所で炊飯をしている。毎月一日には赤飯を出し、季節感を感じるおでんや冷麺を提供しており、ユニットごとに、当日の献立が壁のホワイトボードに書かれ、食事に興味を持つ工夫がされている。配席に気を配る対応をして、殆どの入居者が完食していた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態での提供、食事量のチェック行い、必要に応じて介助や言葉かけを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて器具を使い分け、口腔の確認を行い清潔保持に努めている。異常が見受けられた際は訪問歯科に相談を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンや仕草を把握し、トイレでの排泄が出来るよう誘導や促しを行っている。	トイレでの排泄を支援するために、トイレドアに絵と文字で分かりやすく表示して、男女別室で気持ちよく使えるようにしている。トイレ使用後には、職員が清潔保持を心がけている。日中は殆どの方が布パンツとパットを使用し、夜間は、ポータブルトイレを使わず、誘導して自立支援を促している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心掛け、体操等の活動を行うようにしている。車椅子の方にも職員と個別に体を動かす時間を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの状態や体調・要望等に合わせて入浴を提供させて頂いている。提供時には、ゆっくりと入浴を楽しんで頂ける様に必ず個別での対応を行っている。	週3回の入浴を支援し、なるべく同性介助して殆ど拒否なくゆっくりと個別入浴している。医師確認のもと、入浴が負担になる方はシャワー浴で対応している。入浴後、保湿ケアはワセリン、ボディクリームと個別対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣や状況を見ながら、ベッドでの臥床やソファでの休息を取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を確認しながら薬をセットし、必ずダブルチェックを行っている。薬剤の変更や医療従事者からの指示があれば、日誌や受診記録へ記載し情報の共有・把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の経歴や生活歴等の情報を元に日課を持って頂き、職員や時には他利用者との交流も図りながら行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年数回家族参加の行事や地域行事への参加の支援を行っている。また、定期的に地域の園児が苑に来訪し交流する場を設けている。その他にも、個々の状況に応じた外出の支援に努めている。	普段の買い物で外出の時は、少人数対応をしている。地域行事の敬老会に出席して外部の人と交流をしている。入居者が作製したお菓子を、来設した園児に贈るなどの交流も続けられている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては全介助であり、紛失等のトラブル防止の観点から立替金制を導入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から電話の要望があった際には、職員がご家族に連絡・確認の上お繋ぎをしている。手紙に関しては現在送られる方はいないが、届いた手紙は本人様にお渡しをし、必要に応じ代読支援も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の飾りを取り入れており、生活感も採り入れられる様に利用者手作りの物も飾られている。また、温度調整やテーブル配置など快適に過ごせる様に配慮している。	平屋作りで、各ユニットが左右対称になっており、一同が集まるリビングは開閉式の扉で仕切られているが、扉一枚分が空いてお互いに声も聞こえ、職員の目が届きやすい。大型のプラズマクラスターが設置され、防臭効果や乾燥防止に役立っている。中庭から日差しが入り明るいリビングで、手作りの作品をいくつも天井から下げて飾られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと独りで過ごせる様にソファなど休憩スペースを設置している。また、利用者の状況や要望等を取り入れながら席の配置を考慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様・ご家族と相談しながら、本人様が使用していた思い出の品や馴染みの物を置き環境を整えている。また、苑にて手作りされた物があれば合わせて置かせて頂いている。	居室の掃き出し窓は庭に面している作りで、明るい日差しが入り、季節の衣類などが入れられる広いクローゼットがある。プライバシーに配慮した内鍵付きの扉は、上部の小窓から安全確認ができ、外からも開錠できる。入居前から使用していた鏡台、タンス、椅子や、個人対応の加湿器が置かれ、清潔に使われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活支援に繋がるよう、共用で使用するトイレ等に見易い案内表示を施したり、廊下に休憩スペースを設置するなど安全の確保に努めている。		